

帝王切開術説明書

1. 術前診断(週数) 妊娠 週 日

2. 手術予定日 未定

3. 予定術式 帝王切開術

帝王切開は母体が経膈分娩が困難な場合、急速遂娩(赤ちゃんを早急に産ませる)を必要とする場合、妊娠・分娩経過で経膈分娩によって母児に危険が及ぶと判断される場合に行われる手術です。

帝王切開を行うことにより、母児の安全を守ること、経膈分娩を選択することによるリスクを回避することを目的とします。

4. 手術内容

- ・ 腹壁は 縦 横 未定] 切開にしておなかの中に到達し、子宮体下部を横切開して赤ちゃんを胎盤を娩出します。
- ・ 皮膚・皮下組織は原則的に抜糸が不要な吸収糸で縫合しますが、糖尿病などで創部の癒合が悪いことが想定される場合はステープラーなどを用いて縫合します。皮膚の表面はテープで補強して創面保護シートを用いて創面を保護します。シャワーを創部に直接かけても大丈夫です。
- ・ 手術には小児科医が立ち会います。

5. 麻酔法 麻酔科に一任しています(入院後、手術前に麻酔科医より詳しい説明があります)

6. 合併症 重篤なもの(1%以下の確率)

(1) 出血/輸血

一般に帝王切開では500~800ml程度の出血が想定されますが、子宮収縮が不良な場合、癒着胎盤やその他の想定外の出血によって生命に危険がおよぶと判断される場合には止むを得ず輸血をする場合があります。

それでも出血が止まらない場合には子宮摘出をすることもあります。

また、出血のコントロールのためにバクリバルーンという風船状の器具を子宮内に挿入することもあります。

(2) 他臓器損傷(膀胱・尿管・腸管など)

専門医による修復を行うことがあります。

(3) 血栓塞栓症

長時間の安静などによって主に下肢の静脈内に血栓ができ、血液の流れによって肺に詰まった場合には致命的な状態に陥ることのある合併症です。

ガイドラインに沿って弾性ストッキングや間歇的加圧ポンプを用いて予防しますが100%ではありません。

(4) その他

前置胎盤や弛緩出血などでは術後出血により再開腹が必要な場合、術後の腸閉塞、縫合不全による創部離開、感染(創部・骨盤腹膜炎・産褥子宮内膜炎・肺炎・腎盂腎炎、特に前期破水や肥満、糖尿病を合併している場合)、発熱・嘔気・嘔吐・下腹痛などが起こる可能性があります。

7. 手術後について

- ・ 赤ちゃんは生まれた後、小児科医が診察しますが、早産児の場合や正規産児であっても赤ちゃんの状態によってはNICUでの管理になることがあります。
- ・ 帝王切開で生まれた赤ちゃんは、肺に羊水がたまった状態で生まれる場合があります、一過性多呼吸になることがあります。
- ・ 血栓塞栓症の予防のために術後は早期に離床を心がけていただきます。
血栓症発症の危険性の高い場合には術後から退院まで血栓防止薬を投与することもあります。
- ・ 手術後の状態によってはお母さんをICUで1日～数日管理してもらうこともあります。
- ・ 帝王切開後の妊娠は1年間空けていただくことをお勧めします。
- ・ 当科では次回分娩は全例予定帝王切開にしています。帝王切開の回数は3回までとしています。それでも約1%で予測不能な子宮破裂を起こす危険性があります。
手術終了後、医師よりご家族には手術経過を説明します。
- ・ 定型的な手術以外の手術が必要になった場合、基本的には手術後に説明します。
- ・ 手術後の経過に問題なければ、手術後1週間目に子宮復古の状況、創部の状態などを診察して手術後7～8日目の退院としますが、母体の回復状況によっては入院期間が更に長くなることもあります。

以上、説明をいたしました。ご不明点・疑問点などがありましたらいつでもご相談下さい。

帝王切開術同意書

手術予定日

未定

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 術前診断(週数) | 5. 麻酔法 |
| 2. 手術予定日 | 6. 合併症 |
| 3. 予定術式 | 7. 手術後について |
| 4. 手術内容 | |

以上の内容について説明いたしました。ご不明な点がございましたら再度ご説明いたします。
なお、同意を拒否または直前に同意を撤回することは可能です。

西暦 年 月 日

社会医療法人母恋 日鋼記念病院
産婦人科

担当医

印

同席者
(医療者)

印

(自筆署名の場合は押印不要)

同意書

このたび、私は上記の診療行為を受けるにあたり、担当医から十分な説明を受け理解しました。そのうえで実施することに同意します。

また、実施中に緊急の処置を行う必要が生じた場合には、医師の判断のもと適宜処置されることに同意します。

西暦 年 月 日

患者署名

【保険証記載の字体で署名してください】

代筆者署名

(続柄)

【ご本人に同意能力がない場合、または病状等により署名ができない場合は患者氏名を代筆で記入し、代筆者署名欄に署名してください】

同席者署名

(続柄)

【説明時同席した方がいる場合、その代表者が署名してください】